

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

3月13日23時04分頃から14日明け方にかけて断続的に62-2火口で微弱な火映を観測しました。この現象は、高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられます。火山ガスの濃度が高い可能性がありますので、火口周辺では注意してください。<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

○今回の活動概況

昨日（13日）23時04分頃から本日（14日）明け方にかけて、断続的に62-2火口で高感度の監視カメラにより確認できる程度の微弱な火映を観測しました。この現象が観測されたのは2020年8月18日以来です。

この現象は高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられます。

今回の火映に伴って火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、62-2火口の噴煙や地殻変動には特段の変化はありませんでした。

○活動評価

十勝岳では、2006年から2017年秋頃にかけて山体浅部が膨張し、その状態が現在も維持されています。火山性地震の一時的な増加、火山性微動や火山性地震と同期した傾斜変動は時折観測されており、振子沢噴気孔群や62-2火口では地熱域の拡大や高温の状態が確認されています。火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動推移には注意が必要です。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

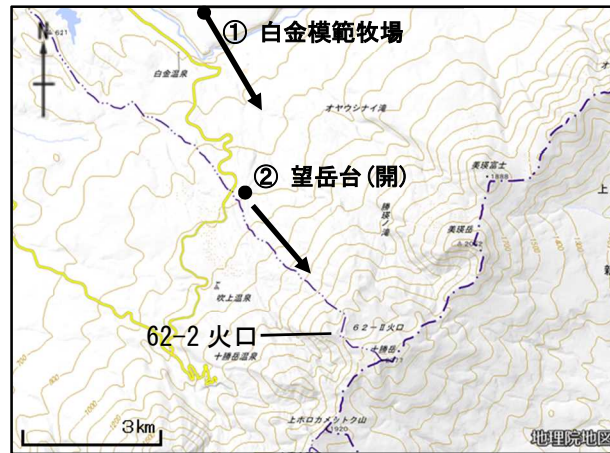


図1 十勝岳 監視カメラ位置図及び撮影方向（矢印）
（開）：国土交通省北海道開発局

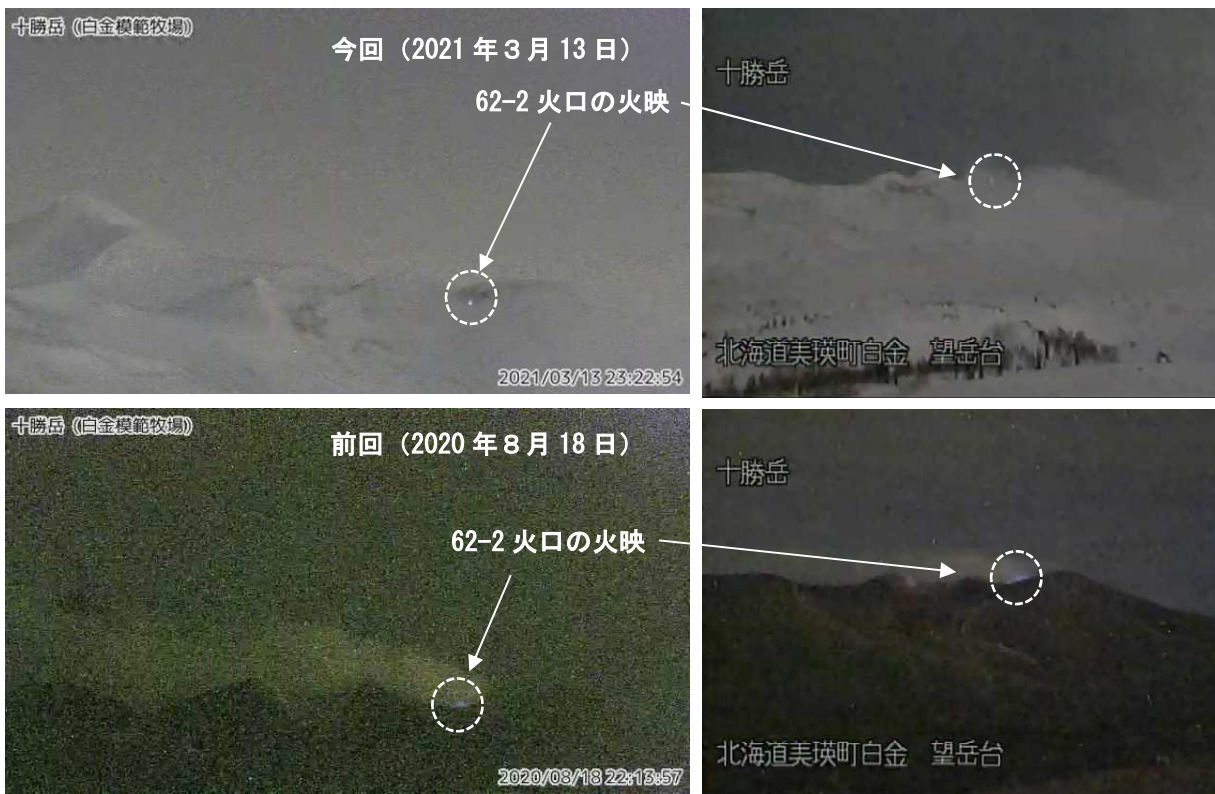


図2 十勝岳 62-2火口で観測された火映

- 上左：2021年3月13日23時22分頃 白金模範牧場（図1-①より撮影）
- 上右：2021年3月13日23時22分頃 望岳台（北海道開発局）（図1-②より撮影）
- 下左：2020年8月18日22時13分頃 白金模範牧場（図1-①より撮影）
- 下右：2020年8月18日22時19分頃 望岳台（北海道開発局）（図1-②より撮影）